

今年も日米で野球が始まりました。みなさんも大谷選手を、地元の方は中日ドラゴンズの活躍を楽しみにされている事と思います。

さて、今から50年近く前、差別の中、黒人初の大リーガーになったジャッキー・ロビンソンはこんな言葉を残しています。「『不可能』の反対語は『可能』ではない。『挑戦だ』」

という言葉です。

では「愛」の反対語は何かご存じでしょうか？私は「憎しみ」なのかと思いましたが、マザーテレサは「憎しみ」ではなく「無関心」だと言っています。

「憎しみ」はもちろんよいことではありませんが、たとえ憎い相手であっても「関心」があり、関心があるからこそ「憎しみ」も湧いてきます。子ども時代、好きだからこそいじわるをする子どもがいるように、関心があれば、時にそれは愛に変わったり、憎しみの気持ちに変わったりするのです。

それに対して、「無関心」からは何も生まれません。誰にも望まれていない時、人はもっとも傷つきます。現代のネット社会の特徴の一つは、自分の関心のある人やものの情報は次々と集めるのに対し、関心のない人やものの情報はほとんど集めないことです。そもそも関心がないのですから、そこに愛が生まれることもありません。

「人」という字が表しているように、不完全な物同士が支え合うのが人間の姿だとすれば、関心の輪から一步を踏み出して、「お互いがお互いを必要としている」ことを改めて知ることが大切なのではないのでしょうか。

ウクライナの悲惨な現状だけでなく、広くは世界から近くは身近な生活まで、お子様が「無関心」な大人にならないよう、ご家庭、幼稚園、保育園で大事にお育てしたいと願います。

理事長